



この夏は「記録的な」「観測史上最も」といった言葉がつく暑さや、雨の量に見舞われた天候でした。台風や局地的豪雨により被害のあった地域もありました。それでも私たちの生活においては「行動制限なし」「マスクなし」の夏でもありました。地域によっては夏祭りや花火大会なども行われたところもあります。みなさんはどんな夏休みを過ごせたでしょうか。

夏休みも終わって2学期が始まります。「学校に行けて、みんなに会えてうれしいな!」でしょうか?それとも「ああ、学校始まる…嫌だなあ〜」でしょうか?いずれにしても、新たな気持ちで2学期をスタートすることで、きっとステキな学校生活が送れることでしょう!コロナの時代とは違ったさまざまな不安や心配があるかもしれませんが、みなさん一人ひとり、心も体も健康に過ごしてほしいと祈っています。

今月の礼拝 単元4: アブラハム

📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中高生) 9:00 ~ 9:30	プレイ・タイム (小学生/中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00 ~ 10:20
9月3日	アブラハムのとりなし	創世記 18:16-33	📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈		📖 安達正樹教師 🎵 堤 砂里奈
9月10日	ソドムとゴモラ	創世記 19:1-29	📖 安達正樹教師 🎵 武岡路実		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
9月17日	アブラハムの試練	創世記 21:1-8、22:1-19	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
9月24日	イサクの結婚	創世記 24 章	📖 堤 砂里奈 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈

振起日 あまり馴染みがないかもしれませんが「振起」とは「奮い立つこと。奮い起こすこと。」という意味です。教會的には「再びしっかりと信仰を持つ」「神さまに立ち返る」とも言いたいでしょうか。教會学校のみなさんにはちょっと難しいかもしれませんが、「神さまのことを思い起こす」「神さまの御声に耳を傾ける」と言い換えてみましょう。教會の伝統の中で9月の第1日曜日を「振起日」「決心日」と定めているところもあります。これから秋、そしてクリスマスへと向かっていきます。教會の歩みもしっかり続けていきましょう。



今月の聖句

「^{しゆ}主の山に、^{やま}備えあり」 (創世記 22:14)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 44 (アブラハム、アブラハム)

8月後半に続いて9月の礼拝では、旧約聖書「創世記」からアブラハムについて学びます。アブラハムは父や兄弟と共にカルデアのウルという町の出身でしたが、ウルから北西に800kmほど離れたハランという町に移り住みました。さらにアブラハムの一行はハランから南へ進みカナン、ネゲブ地方を通過して600kmほど離れたシュケム、さらに400kmほど離れたエジプトまで進みます。約1800km! 実に北海道最北端の宗谷岬から鹿児島最南端の佐多岬までの直線距離と同じほどこです。アブラハムがたどった道のりは、山あり、谷あり、砂漠あり…高低差も大きく、過酷な道のりでした。そのような長く苦難な旅の道でアブラハムを支えたのが、神さまからの祝福の言葉でした。その神さまからの言葉を信じる信仰を学んでいきましょう。

今月のさんびか44「アブラハム、アブラハム」はタイトルのとおり、神さまの言葉に従って旅立つアブラハムを題材としています。改革派の伝統を強く受け継ぐオランダは旧約聖書に重きをおいています。近年、オランダは新しい賛美歌を創作することに積極的で、優れた賛美歌がたくさん生まれています。この賛美歌も、子どもたちへの聖書の教育の場から生まれました。

作詞者はオランダの詩人ハンナ・ラムさん(1928-1988)です。彼女の出身地ユトレヒトはオランダ中部の町で、17世紀に現在の首都アムステルダムに移るまではオランダの中心都市として栄えました。特に8世紀以降、オランダにおけるキリスト教の中心地として、現在でもカトリックとプロテスタント共に重要な拠点とされています。旧市街地には14世紀にカトリックの聖堂として聖マルティン大聖堂が建てられ、高さ112mの塔(現代で考えると25階建を超える高さ!)は今でもオランダの教會で最も高い塔です。1580年からはプロテスタントの教會としてドム教會となりましたが、現在でもその塔がひととき目立ってそびえ立つのを眺めることができるのは、この塔を超える高さの建物を建ててはいけないという暗黙の了解が長い間守られてきたことにより、現在でもこの高さを越えるビルは存在していないそうです。

同じくユトレヒト生まれでこの賛美歌の作曲者でもある教會音楽家ヴィレム・テル・ブルクさん(1914-1995)と共同で賛美歌集を出版し、その賛美歌集に収められた賛美歌は、教派や、国、世代を越えて、多くの人に愛好され歌われています。

この賛美歌は、神さまの言葉の部分(1、2、3節)と、それに応答する答唱する部分(「くりかえし」)から構成されています。答唱は曲の始め、節と節の間、終わりに歌います。神さまの言葉の部分は独唱や聖歌隊によって歌い、会衆がそれに応答して歌うこともでき、オペラや歌劇のように表現することで、旧約聖書の物語を生き生きと、今の物語として再現することができます。この賛美歌を通して、私たちも神さまとアブラハムの応答、さらには神さまとアブラハムそれぞれの心情を感じ取ることができる賛美歌です。そして、私たちもまた神さまの言葉を信じるアブラハムの信仰を学び、たとえ不安や苦難の中にあってもいつも神さまが共にいて力づけてくださることを信じて歩いていきましょう。



がたんじょうびおめでとう🎂

9月生まれのお友だち